

# 物価動向とわれわれの暮らし

主任研究員 南 武志

つい半年前まで日本では消費者物価の下落傾向が続いてきたが、最近ではガソリン・灯油など石油製品や電気・ガス代などといったエネルギー、さらには食料品の値上げといったニュースが相次ぐようになっている。こうした物価動向はわれわれの暮らしにどのような影響を与えているのだろうか。

## 1 価格の二極化

消費者物価上昇率（全国、総合）は07年10月に前年比プラスに転じて以降、徐々にプラス幅を拡大させており、直近分（08年2月）は1.0%まで高まった。

最近の物価上昇の主役は国際原油市況の高騰を背景とした「エネルギー」であり、前年比9.2%まで上昇率が高まっている。特に、07年初頭はいったんガソリン価格などが値下がりしてただけに、上昇率が高く出ている。こうした原油高騰のほか、地球環境への意識も高まり、バイオ燃料への注目が集まっている。それによりバイオ燃料生産のための穀物需要が強まっており、穀物価格も高騰している。これに豊かになった新興国の食料需要の高まりや昨年のオーストラリアでの早魃かんばつなども加わり、小麦粉、食用油など食料が断続的に値上がりし始めている。

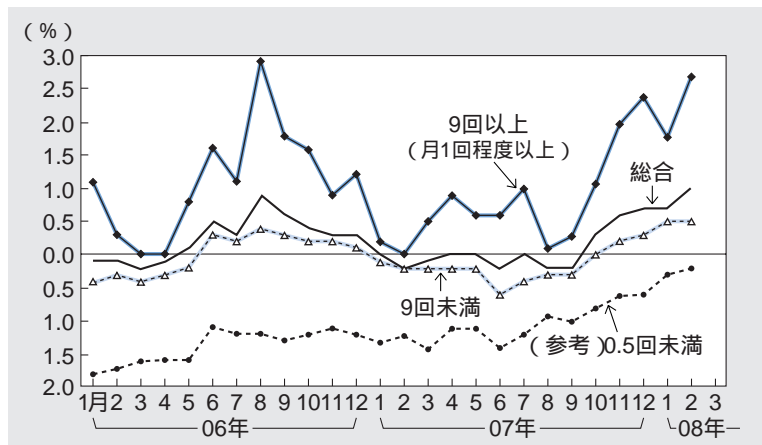
一方で、電気製品など耐久財の多くは依然として価格下落傾向が

続いている。これらは技術進歩が著しく、新製品が発売されると既存製品の値下げ圧力が高まる上に、パソコン、カメラについては性能向上分を価格動向に反映させる手法（品質調整）を採用しており、恒常的に物価押下げ効果が発生している。

なお、総務省統計局は「エネルギー」「生鮮食品を除く食料」「家庭用・教養娯楽用耐久財」などが消費者物価上昇率に対してどの程度影響を与えたか（寄与度分析）について試算している。2月分については前年比1.0%の物価上昇率に対して、「エネルギー」「生鮮食品を除く食料」はそれぞれ0.71ポイント、0.42ポイントの押し上げ効果があったとされている。特に、ガソリン単独で0.42ポイントも押し上げるなど、原油高に伴うガソリン高騰の影響度の大きさが見て取れる。

一方で、「家庭用・教養娯楽用耐久財」は消費者物価全体を0.18%押し下げるなど、モ

第1図 品目の年間購入頻度階級別指数(前年比)



資料 総務省統計局

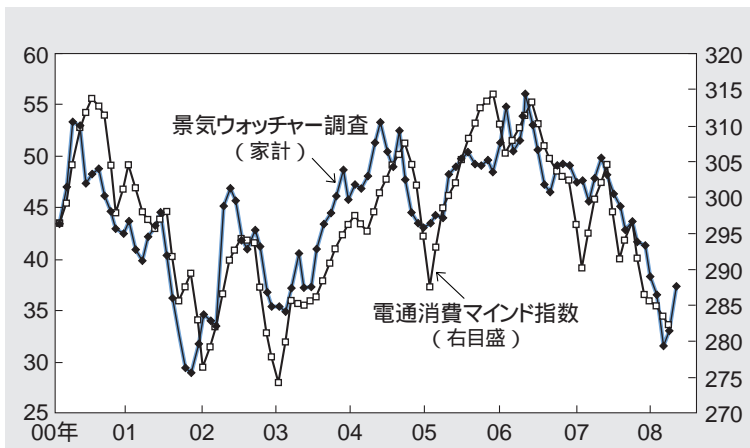
ノ・サービスの価格は二極化が進んでいる。

購入頻度別に見ると、日常的に購入するものの値段は上昇しているが、めったに購入しないものの値段はあまり上昇していない。また、食料・エネルギーなど生活必需的なものの価格上昇が目立つ（2月：前年比1.7%）一方、支出弾力性（消費支出総額が1%変化する時に各財・サービス<以下「支出項目」>が何%変化するかを示した指標）が1以上のいわゆる選択的支出項目の動きは鈍い（同じく0.1%）。こうしたことが、日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」において、人々が感じる物価上昇率の中央値が前年比5.0%と、消費者物価統計と比べて明らかに高い原因となっているものと思われる。

## 2 悪化する家計部門のマインド

08年春闘について、かねてから日本経団連は業績が好調な企業は賃上げに積極的に取り組むべきという指針を打ち出すなど、「企業から家計への波及」の進展が期待されていた。

第2図 著しく悪化した消費者マインド



資料 内閣府・電通の資料より作成  
(注) 電通消費マインド指数は偶数月調査のため、奇数月は線形補間。

しかし、米サブプライム問題の表面化により、世界経済の先行き不透明感が高まっている上に、円高ドル安・株安・原油など資源高などが企業収益にマイナス効果をもたらすとの見方が強く、結局07年並みにとどまりそうな状況に陥っている。日本経団連が大手企業を対象に行った第1回集計（3月28日時点）によると、前年比1.91%（07年は1.85%）とわずかに前年の伸びを上回ったに過ぎない。これらは、物価上昇率や租税・年金負担が高まるなかで、雇用者の暮らし向きはなかなか改善しない可能性を示唆している。その結果、消費者のマインドは大きく悪化し、民間消費の先行き悪化懸念が強まっている。

ちなみに、農家・畜産家にとっても現状の物価環境は厳しいものとなりつつある。肥・飼料やA重油、資材など投入コストは高騰しているものの、それらに比べれば農畜産物の価格上昇は限定的であり、経営状態は厳しさを増している。

現在の日本経済は、「所得が伸び悩むなかで値上げに対して拒否反応を示す家計部門」と「コスト高をなかなか価格転嫁ができず、賃上げに消極的な企業部門」との間で悪循環が発生しているようにも見受けられる。この悪循環の打破には、これまでゼロ・インフレ期待を根付かせるような政策運営を行ってきた日本銀行の政策運営を修正していく必要があるように思われる。

(みなみ たけし)